

日本ボーイスカウト北海道連盟だより 144号



# 斧の響き



荒海への船出を～子どもたちの笑顔に～

ボーイスカウト北海道連盟  
理事長 長岡 正彦

8月2日蔵王坊平高原の夕闇迫る中で4HTCの閉会式で唄われていた「宙船」を聞きながら、3泊4日のプログラムを成し終えたスカウトたちの笑顔と共に、ボーイスカウト運動の今、そしてこれからを想い浮かべました。

「その船を漕いでゆけ お前の手で漕いでゆけ その船は今どこに ふらふら浮かんでいるのか その船は今どこで ボロボロで進んでいるのか …… その船は自らを宙船と忘れていいのか その船は舞い上がる その時を忘れていいのか 地平の果て 水平の果て そこが船の離陸地点…」

今、「いじめ」「児童虐待」「ネット犯罪」「環境破壊」「自然災害」そしてゲームや携帯メールなどによる短絡的な思考形成…子どもたちにとって不幸な状況が多い世情です。あわせて、進学競争による塾通い、過剰な部活などで、社会性を育む時間やゆとりのない忙し過ぎる子どもたち。一方、不景気などで子どもたちに奉仕する時間やゆとりのない大人たち…

B-Pは往時の混迷しているイギリスで明日の社会を担う子どもたちの未来を憂い、ボーイスカウト運動を創始したことはご存知のとおりです。今の混迷しているわが国で、我々の“ちかい”と“おきて”の実践を基盤として「行うことによって学ぶ」ボーイスカウトの教育運動が最も必要とされているのではないのでしょうか。

しかし、加盟登録数が減少の一途をたどっているのは何故でしょうか。

6月下旬、何十年ぶりでWB研修所に参加しました。ビーバー課程で童心に帰り2泊3日、参加した仲間と共に学んだ多くの事を、遊びに来た孫に応用するとおじいちゃんの株が上がりました。4HTCに参加するため全道各地から、事前訓練のために苫小牧に集合したスカウトたちの動きを見て一抹の不安を感じましたが、7日間生活を共にする事により、全てのスカウトたちにそれぞれ成長が見られ、フェリーを降り苫小牧での解散式の時には、皆が涙を流し肩を組んで別れを惜しんでいました。北海道キャンポリーではベンチャースカウトの献身的な奉仕で、雨の中でも满面笑顔に充ちてキャンプファイヤーを楽しんでいました。

子どもたちは体験（行う）機会を提供することにより素直に適応して学んでくれるのです。我々が研修等で学んだことは家庭や社会で応用することができるのです。

私たちは、ボーイスカウトという枠組みの中での動きに留まっていないのでしょうか。従来からの固定的な概念から脱皮できないのではないのでしょうか。地域社会に理解を求める努力に欠けていないのでしょうか。特に、指導や運営に関わる多くの方々は日々の活動で「教育運動」であるということ、社会の一員として子どもたちを育む奉仕をしているのだという認識がやや薄くなっているのではないのでしょうか。

B-Pが「スカウティング・フォア・ボーイズ」を刊行すると、子どもたちが自発的に活動を行いました。北海道のボーイスカウト運動の先達である下田豊松翁も荒滝實初代連盟長も、「社会教育運動」としてボーイスカウト運動を献身的に推進されかつ一個人としても幅広い視野のもと、地域社会に様々な貢献をされていました。

宙船（ボーイスカウト号）は今、荒波にさらされふらふら浮かびボロボロ進んでいる面もありますが、ボーイスカウト運動の基本理念を再度確認・認識され、意識して視野を広め、次回の集会を楽しみにしている子どもたちの笑顔と未来に答えるため、ボーイスカウト運動に関わる一人ひとりが「その船を お前の手で漕いで」行くようではありませんか。

## 富士章受章スカウト 首相官邸・文部科学省、東宮御所 訪問

23年度富士章受章者を代表して3名のスカウトが、首相官邸・文部科学省、東宮御所を訪問しました。参加したスカウトの感想・報告を紹介します。

〔名寄第1団 安保 絵美莉〕

### 《道庁表敬訪問》

道庁到着後、進行説明、いつもより厳しい服装点検を行い入室。多田副知事は思ったよりも気さくにしゃべってくださる方で、場の雰囲気が重くならずよかったです。その反面、スカウトは緊張で固まってしまい声が小さくなって、うまく質問に答えることができなかつたのが残念でした。

### 《北海道連盟顕彰式》

道庁での緊張から少し解放され気持ちも楽になったところでの顕彰式はとても印象深いものでした。

自分だけの番号が入ったチーフリングとバックルは富士スカウトというものを再認識させてくれるものとなりました。

普段あまりかかわることのない道連のみなさんや、他の地区のスカウトと少しではありますが交流できた時間はとても良かったです。

### 《文部科学省表敬訪問》

文部科学省では奥村文部科学副大臣より「スカウト活動での経験を活かし活躍してほしい」と激励の言葉をいただき、改めて富士スカウトとしての実感が湧き、これからのスカウト活動への意欲が増しました。

### 《首相官邸表敬訪問》

日本のトップである野田総理大臣から激励の言葉をいただいたことは普通の高校生、大学生では経験できないことをしたのだと今改めて感じました。

また、そんな経験をしたからこそ富士章を目指す後輩のサポート、今まで指導して下さった隊長や両親、地域の人たちに感謝し、還元していきたいと思いました。

### 《全体を通して》

文部科学省、首相官邸代表表敬スカウトとして全国の富士スカウトと会うことができ喜びと驚きの繰り返しでした。

皆それぞれに苦労し、さまざまなプロジェクトを成し遂げ集まった47名のスカウトとは苦労や思い出を語り合うこともできました。

さらには、スカウトのほとんどが大学生や社会人ばかりでいろいろと刺激を受けた2日間でした。

〔名寄第1団 戸田 哲暢〕

### 《道庁表敬訪問》

最初に副知事にどんな質問をされるか質問が割り当てられていたのに、副知事から全然違う質問をされてとてもビックリしました。

なので自分の言いたいことが上手く話せませんでした。今後につながるいい経験が出来たと思います。

### 《北海道連盟顕彰式》

緊張していた副知事訪問が終わり、だいぶ落ち着くことができとてもいい時間だったと思います。

チーフリングやバックルなどをもらって富士章をとった実感が強くなり、ほかのスカウトとも交流が出来たので良かったと思います。

### 《文部科学省表敬訪問》

文部科学省はテレビで見たことがあったので入るときはかなり緊張しました。

ですが、奥村文部副大臣からの激励の言葉を受けてスカウト活動の素晴らしさを改めて実感させられました。

### 《首相官邸表敬訪問》

首相官邸訪問は、日本のトップに会えるというところでずっと緊張していましたが、首相の話聞いて富士章を取ることができて本当によかったと思いました。

富士章をとってこれで終わりではなく、これからも色々なプロジェクトに取り組んでいきたいと思いました。

### 《全体を通して》

日本連盟のスカウト会館では、全国のスカウトの方と交流する機会がありとてもいい刺激を受けました。

全国のスカウトはとてもレベルが高かったので、自分も追いつけるように自分を高めていきたいと思いました。



## 〔当麻第1団 高田 理貴〕

私になぜ、富士章に挑戦し取得しようと思ったか。その理由は、二つ有ります。

一つの理由は、自分の力を試してみたかったからです。

私は、カブスカウトからボーイスカウトの活動をやって来ました。その活動の中で、いろいろな技術・技能を身につけて来ました。

そんな力（技術・技能）を身につけた上で、ベンチャースカウトに上進で出来たのです。この力とベンチャースカウトで学んだ事を、付け加えて「富士章」に挑戦しようと思ったのです。

二つ目の理由は、自分をもっともっと成長させたいと思ったからです。当麻第1団でただ一人のベンチャースカウトであります。

ベンチャースカウトとして、ボーイスカウト達の指導をしなければ成らないので、その手本となるために、富士章に挑戦し自分自身を鍛え上げ、立派なベンチャースカウトになってボーイスカウト達を指導する力を身につけたいと、思ったからです。

この二つの思いを背負って富士章に挑戦しました。

富士章面接の時には、緊張してうまく話せなかったのが、今でも残念に思っています。でも、自分の全力を出す事が出来て、良かったと思いました。

その結果、富士章を無事取得できた事はとても嬉しかったです。更に富士章を取得したベンチャースカウトの中から「総理官邸と文部科学省表敬訪問」「東宮御所表敬訪問」が、有る事を知らされました。

富士章を修得したベンチャースカウトの中から選ばれ決められると聞いていました。正直自分が、「東宮御所表敬訪問」に選ばれたと団委員長から聞いた時は、とてもびっくりしました。最初から自分が選ばれるとは、思っても見なかったからです。

表敬訪問は、貴重な体験をする事なので緊張するのではないかと思います。でも、平常心を持って表敬訪問に行こうと気を配りました。

当日は、大変な悪天候でした。悪天候の影響で風が強く、東京へ着くまで不安でした。無事に東京へ着いて一安心でした。

集合場所のボーイスカウト日本連盟会館に着いた時は、ベンチャースカウトが大勢いました。ほとんどのベンチャースカウトは、大学生の人達でした。高校生は自分だけでしたので、すごく不安でした。グループに分けられましたが、不安はぬぐえず不安のままでした。

グループの中で、スカウトの皆と話をしているうちに不安もなくなり、緊張も少しずつほぐれてきました。

翌日の表敬訪問に向かって、移動の方法や集合の方法等の練習をさせられました。練習なので緊張は無かったです。

本番では、緊張して焦って「失敗をしたらどうしよう」とか、皇太子殿下と話しをする時、上手く話せなかったらどうしようとか、いろいろ考えて心配でした。

表敬訪問当日になり、私は朝から緊張をして居ました。

午前中は、バスに乗って「東京観光」でした。一度は、観て観たかったものが観る事が出来て、とても良かったです。

午後になり、東宮御所の表敬訪問となりました。東宮御所の敷地内に入った時私は、東京なのに別の世界に居るみたいに感じました。

一般の人が立ち入ることの出来ない厳重な警備と、木が多く、静かで奥ゆかしい建物、神々しい所でした。

記念撮影が終わり、ついに東宮御所に実際に入ることになりました。中に入って皇太子殿下がお出でになるまでの、待っている間は極度の緊張状態になっていました。

皇太子殿下が来られてお話しをされていられる時は、もう緊張状態が極限に達していました。

お話しが終わられた後でも、私は緊張状態が続き足が震えて、今にも倒れそうな状態になって居ました。

皇太子殿下とお話しをされた時の間は、私にとって一生に一度の、この時しか経験出来ない貴重な事なのだ、実感しました。

今回の東宮御所の表敬訪問は、とても貴重な体験でした。この貴重な体験を基にして、今後のボーイスカウト活動を行って行きます。

今回のこの経験で、自分自身が大きく成長出来ました。また、ボーイスカウト活動だけでなく、学校や地域社会の活動でも、頑張るって行きます。

《道連事務局からのお知らせ》

3人の文中に「大学生」がいるとの記述がありますが、

〔現行教育規程〕で

3-62 ボーイスカウトは、中学3年生9月以降ベンチャー隊に上進する。ただし、中学を卒業するまでのボーイスカウトは、ボーイ隊にとどまることができる。

3-74 ベンチャースカウトは、18歳に達した後、ローバー隊に上進することができる。

② 20歳に達したベンチャースカウトは、ベンチャー隊にとどまることができない。と定められているため、高校3年生で富士章を受章した大学生年代のスカウトたちです。

平成23年9月よりベンチャープログラム改正に伴い、〔教育規程が次のように改正〕になっています。

3-74 ベンチャースカウトは、18歳に達した後、ローバー隊に上進することができる。

② ベンチャースカウトがベンチャー隊にとどまれるのは、18歳に達する日以降の最初の3月31日までとする。

※ この改正は移行期間が設けられており、平成26年4月1日から完全移行されます。

【平成24年度富士章顕彰対象は平成24年12月までに地区面接終了者です】

平成24年度富士章修得者顕彰は、平成25年1月末までに北海道連盟面接終了者が対象となります。従いまして、24年12月末までに地区面接をされ北海道連盟に申請してください。

特に、地区面接では、「完成度の高いレポート」になっているか、富士章修得後に「どのようなスカウティングを实践しようとしているのか」「どのような人になろうとしているのか」を重視してください。

スカウト進級状況 24年4月～9月

種別	修得者数	地区別修得状況	
宗教章(仏教)	4	札幌4	
信仰奨励章	1	旭川1	
菊章	9	胆振1、札幌2、旭川4、上川1、釧路1	
1級章	14	札幌2、留萌3、旭川5、釧路2、十勝2	
技能章	野営	3	上川2、釧路2
	救急	3	釧路3
	炊事	7	上川2、釧路5

【ターゲットバッジ購入状況から見る技能修得状況の傾向】

メンバーシップ(A1)	14	記録(C3)	3	サバイバル(F3)	11
家庭(A2)	12	写真(C4)	6	フィッシング(F4)	10
B-P(A8)	10	計測(D2)	3	パイオニアリング(F5)	3
リーダーシップ(A9)	2	キャンプ企画(E1)	10	近隣奉仕(G3)	11
健康(B1)	4	野外料理(E2)	3	環境保護(G4)	5
水泳(B3)	3	キャンプクラフト(E3)	3	伝統工芸(G5)	2
救護(B5)	14	燃料(E4)	5	防災(G6)	11
外国語(B7)	1	たき火(E6)	7	マスターバッジ	4
マネジメント(B9)	2	キャンプマネジメント(E7)	4	ターゲットバッジ セット	2
ハイキング企画(C1)	12	食糧(F1)	12		

【進級記章類購入状況から見るカブスカウトの進級状況の傾向】

りすバッジ	38	クリア章 うさぎ(白)	4
進級章 うさぎ	52	クリア章 しか(黄)	5
進級章 しか	66	クリア章 くま(赤)	2
進級章 くま	54	上進章	35

## 「北海道キャンポリー2012」開催

8月3日(金)～8月6日(月)の3泊4日、真狩野営場で29個団からスカウト66名、ベンチャースカウト15名、指導者61名計142名が参加し、「北海道キャンポリー2012」が開催されました。

このキャンポリーは「ともに進もう 真の頂きへ」をテーマに「パトローリングを実践する/エコキャンプをスカウト自身が考えて実践する/全道のスカウトの友情と交流を深める」を目標に開催し、大会運営も、スカウトたちは班・個人で参加することができ、大会での編成隊を構成する。参加指導者は全て役務を分担する、ベンチャー奉仕隊、under30 隊を編成して主体的にプログラムを担当するなど、昨年開催のカブラリーに引き続き、従来の大会と異なる運営を試行しました。

記録写真集(CD-R)は、参加された各隊に、指導者アンケート集約は参加指導者に配付しますが、スカウトから寄せられた感想文の一部と大会本部統括と管理・総務部とプログラム部の副部長評価を紹介します。

### 苦しかった水汲み

伊原 瑛作〔札幌第14団〕

ぼくは水汲みでかなりつかれました。その理由は、とにかく水が重たかったからです。それと、水汲み場まで百メートルぐらいあったのでかなりつかれました。だけど、キャンプの後半になるとリアカーが使えるようになったので楽になりました。

### 北海道キャンポリーin 真狩

飯塚 奈々〔留辺蘂第2団〕

私は、最初北海道キャンポリーにそんなにいいイメージを持っていませんでした。

ですが、自作フィッシングのオショロコマ釣りで、大きめのオショロコマ一匹を釣り上げたり、いろんな所のスカウトと出会えたりしたりしてすごく楽しかったです。

その他にも、ハイキングで五時間、しりとりなどしてワイワイ歩いていろんな自然を見たり、トイレに行きたくなったりしました。

シティスィープで、真狩村の村の中や良い所、細川たかさんの事を知れました。

キャンプファイヤーでも、雨に濡れながらいろんなゲームをしました。

そして、私達の班は最優秀班に、私は最優秀スカウトに選ばれました。とても吃驚して目が飛び出るどころか、内臓が飛び出るかと思いました。

今回の経験を生かして来年の日本ジャンボリーにも出たいと思います。

### 北海道キャンポリーに行って

阿部 慧汰〔釧路第6団〕

ぼくは、8月3日からの3日間始めての北海道の大会に参加しました。いつもやっている隊キャンプとちがって、環境も人数もちがうので少しとまどいました。でも日数を重ねるうちに、環境にも慣れて他の班の人とも会話できるようになりました。

場外プログラムの神仙沼ハイキングでは、普段見れないような景色を見ることができました。いろいろハプニングもありましたが、いい経験になりました。その後の温泉はとても気持ち良かったです。

帰って来たらB級グルメコンテストがありました。各地域の食べ物を食べられて、とてもおいしかったです。

他の場外プログラムもとても楽しかったです。

最終日には、宗教儀礼がありました。始めてだったので勉強になりました。その後徹営と閉会式をやって帰りました。

時間が早く感じて、とてもいい経験になりました。とても楽しかったです。

## 北海道キャンボリーの感想

河村 龍星〔旭川第20団〕

キャンボリーに行き感じた事が9つあります。

まず、1つ目は他の団と班を作り活動したことです。

20団のキャンプでは二人だけで炊事をするので怒られてばかりですが、他の団とやると苦手な事を補い合いながら出来たので助け合いを学びました。

2つ目は違う班との交流をしたことで新しい友達ができたことです。

僕はしゃげ班の古川 港君と友達になったので班活動でない時や場外プログラムの時などに楽しく活動できました。

3つ目は炊事の時です。炊事の時は、班長や次長、班員の人達と話し合っていたのに、足りない物や必要の無い物があって注意されました。でも、班長がまとめてくれたので作業がスムーズになり班長はしっかりしなければいけないと思いました。

僕も今度から班長になるので、初めのうちはうまく出来なくても少しずつ慣れてうまく出来るようになります。

4つ目はラフティングです。ラフティングをしながら思ったことは川に落ちても慌てずに素早く行動しなければいけないという事です。川に行く時のバスの中でガイドさんが、ボートから落ちたら又は落ちた人がいたら落ち着いて行動するように言っていたのに、実際にラフティングをしている時に、一人が落ちて何も出来ないままガイドさんが助けているのを見ていました。分かっているつもりでも、実際の場面では何もできないことがあることに気づきました。

5つ目はシティスweepです。シティスweepの2つ目の指令文が無くて困りました。

野営場近くまで行くと、ロープを使うゲームの時ロープを忘れたことに気づきました。自分は結局出来なく野営場に戻りました。

6つ目はB級グルメグランプリです。この日には、ラフティングとハイキングがあって、先に帰ったのでジンギスカンの準備をしました。準備をしている時に何故か激辛とうがらしが2袋も入っていました。ジンギスカンを食べる時に入れるのであまり辛くないと思っていたので焼き始めた時に入れて食べると辛くて辛くて、お茶を2本飲み干しました。この事が一番とてもつらい思い出です。

7つ目は火起こしです。火起こしでは、ビニールひもをマッチ2本以内で焼き切るというものです。僕は薪割り係でとにかく細いものや少し太いものを割り続けていました。

火付け係は12団の村上 晴樹君がやりました。隣のチームは、大きい薪を積み上げて、その上に焚きつけを置いて、火をつけるという方法でやっていました。その方法でやっていたチームが先に焼き切り、僕のチームはその後に焼き切りました。後から考えてみると実際の炊事では僕のチームの方が実用的だと思いました。

8つ目はバームクーヘン作りです。バームクーヘン作りを作る時には長い棒にアルミホイルを付けてその上にホットケーキミックスをぬって作りました。生焼けのところや、こげたところもありましたが、まあまあ上手く出来ました。少しパラパラしていましたが美味しかったです。

9つ目は営火です。営火は雨だったので、室内でやるか外でやるかがはっきりしませんでした。でも、少し雨は降っていましたが、外で営火をしました。営火では伝言ゲームのジェスチャー版をしました。いろいろなお題が出て珍解答も出ました。最後には、マオリハーカーというマオリ族の踊りをして終わりました。雨は降っていましたが、とても楽しかったです。

このキャンボリーではいろいろなことで注意をされて少しイライラした時もありましたが、それによって炊事が早く終わったり、班の活動が早くなってとても良かったです。自分の行動が遅くて迷惑がかかったりもしました。

その時に助けてくれた班員の皆さんも、ありがとうございました。今回のキャンボリーで失敗した事や無駄な事を減らして来年に参加する日本ジャンボリーでは皆のためになれるように頑張りたいと思います。



## キャンポリー

斎藤 滉平〔旭川第20団〕

僕は少し眠い中7時10分に大雪アリーナ前に集合しました。そして隊長達の車に乗って真狩村に行きました。車の中は涼しかったです。何度か休憩をしながら行き真狩村に着きました。真狩の野営場は旭川の野営場が大きくなった場所のように思いました。車から荷物を運び設営を始めました。設営が終わった後夕食準備をしました。その日の夕食はカレー少し甘くておいしかったです。そのあと食器を洗って寝ました。

8月4日は朝5時に起きて朝食準備をしてホットドックを食べました。朝食を食べ終わり片づけ終わったあとラフティングの準備をしました。そしてバスに乗りラフティングに向かいました。ラフティングは波が冷たくて気持ちよく水の掛け合いなどをして遊んだり水に飛び込みなどをしました。ライフジャケットのおかげで温かったです。そのあと温泉に入りましたし熱くて気持ちよかったです。

そのあと車に乗って野営場に帰りました。野営場に帰った後携行食を食べてB級グランプリの準備を始めました。B級グランプリは2隊のジンギスカンがおいしそうでした。ジンギスカンには唐辛子が入っていてみんな唐辛子を食べ辛くて走り回っていましたが僕は怖くて食べられませんでしたが、肉は結構食べました。1隊のあんかけ焼きそばは特においしく一口で食べてしまいました。3隊の豚丼はたれが特においしくすぐに食べ終わりました。箸はあんかけ焼きそばに1票いれてB級グランプリの後片付けをしました。ジンギスカンの残りの火で燃えるゴミを焼きました。そして荷物を整理して寝ました。

8月5日朝の5時に起きて朝食準備をして朝食を食べてバームクーヘン作りをしました。バームクーヘンはホットケーキミックスに卵やいろいろなものを混ぜてそれを棒につけては焼きつけては焼きというシンプルな物でした。バームクーヘンはちゃんと切ったら切り口が丸い輪が何個もあり食べてみたら甘くてとてもおいしかったです。

その次はチーフリング作りに行きました。チーフリングの作り方は何個もありその中の1つのやり方で作りました。作り終わった後ベンチャーは違う作り方を教えてくれました。チーフリング作りは難しかったけどコツをつかんだら意外と簡単に作ることができました。

その次は火おこしをしました。火おこしはマキを割ってそれを火付けにしてどんどん火を強くしていくというものでした。火おこしは難しく失敗してしまいました。次こそは成功させたいと思います。

次のシティスイープは町を探検しました。封筒に指令が入っていてそれを読んで探検していくというもので封筒に指令が足りなかったりとして迷ったりしましたが、ベンチャーが教えてくれたりして助かりました。ペットボトルをロープ使ってとれというのがありますがそれをとる方法がわからず結局ゲームオーバーになってしまいました。ハプニングはありましたが無事に野営場に到着することができずこしほっとしました。

そのあと夕食準備をして夕食を食べました。次に雨の中キャンプファイヤをしました。キャンプファイヤでは不思議な方法で火をつけて伝言ゲームをしました。伝言ゲームでは意味が全く分からず前にやった人と全く同じことを次の人に伝えました。このゲームで読み取る力も重要だなと思いました。次にみんなでマオリハーカーを踊りました。マオリハーカーはベンチャーがみんなを引っ張って行ってベンチャーになるとこんなこともやらないといけなと思いました。そのあと明日の朝食の準備をして寝ました。

8月6日材料を切って朝食をたべました。そのあと宗教礼拝をしました宗教別に違う場所に行って各宗教が集まりやりました。僕は神道で人は少なかったですがその分集中してできました。宗教礼拝は日本でいう神様と外国の神様は違うということが分かりとても勉強になりました。



そのあと閉会式をして撤営をしました。これで思ったことは荷物はいつもしまっておくと早く終わることができることです。撤営が終わり隊長の車に乗り大雪アリーナに帰るべくたになりながら解散しました。

僕がこのキャンポリーで思ったことは水はくまなくても蛇口をひねれば水がでて料理も自分で作らなくてもお母さんが作ってくれて本当に今の生活に感謝すべきだと思いました。今回のキャンプで食器にラップをかけて食べるべきかということができました。ラップをかけなければ水を多く使い、ラップをかければゴミが増えます。そういうことをこれから考えていきたいと思います

## 真狩のキャンプで気づいたこと

平村 美瑛〔釧路第6団〕

真狩のキャンプで様々な活動をする中で、いくつかの事に気がつきました。

一つめは、「目に見えないものの大切さ」です。友達と設営、炊事などを共に行う中で、絆や信頼が生まれました。

以前、僕は大切にしていたネッカーリングを失いました。その時、友達が全員で探してくれました。結局見つからなかったのですが、僕は失った物よりずっと大きな物を皆からもらいました。

二つめは、「常に明るさを忘れずにいること」です。自分が笑っていると、皆も笑います。苦しい時こそ、笑顔でいることで、元気が湧いてきます。始めは無理やり笑顔を作っていると、いつの間にか、本当の笑顔になっています。不思議な事です。

三つめは、身の回りの整理です。常に身の回りをきれいにする事で、心も整理されます。今回のキャンプでも、テントの荷物を減らした事によって、快適な三泊を過ごせました。

四つめは、真狩村の、ごみの分別の厳しさです。釧路市とは全く違い、バナナの皮や、卵の殻まで、厳しく分別されていました。だからこそ、真狩村は美しかったのです。つまり、厳しい練習をつんだ選手ほど強くなるということだと思います。

キャンプ三日目のシティスィープ中、僕は友達とごみを拾っていました。気づいたことは、村民の村をきれいにしようという意識の高さです。意識が高いから、ごみ分別も厳しくなっているのだと思います。ごみ拾いで、心がすっきりしました。僕は真狩村をきれいにする事ができたし、真狩村に住む人達も喜んでくれると思うからです。

僕は、善い事をたくさんしようと思います。そして、世界中を笑顔にしようと思います。

.....

## 北海道キャンポリー2012を振り返って

《総務・管理部 野内 吉徳》

新たな発想・体制での全道大会(キャンポリー)開催準備会コアメンバーが平成23年3月6日決定され、ほぼ同時期に開催予定の北海道・東北キャンポリーとのダブル開催となるため開催の是非についても議論された。

事情により山形で開催される北海道・東北キャンポリー参加できないスカウトのため、ボーイスカウト運動活性化のため固定概念に捕らわれず前例踏襲型とならない大会を是非道内でと準備会メンバー全員一致を見た。その後理事会の承認を得て羊蹄山を仰ぎみる「ボーイスカウト真狩野営場」で『ともに進もう 真の頂へ』をテーマに 全道のスカウトと地域の青少年を対象にスカウト運動のパトロールシステムを基盤に、友情を深め様々な体験を通して個人の成長と社会に広く理解されることを目的として開催されることになった。

当初韓国からの参加も予定されていたが、残念ながら不参加となったが全道からスカウト指導者合わせて142人の参加となった。

大会期間中3日目を除いておおむね良好な天候であったが大会会場から蝦夷富士の姿を見れたのは僅かであった。

何といても参加スカウトの思い出に残ったのは、場外プログラムのボーイスカウトの先達下田豊松氏が心身修養訓練道場の候補地を踏査中発見した神仙沼への五色温泉からのハイキング、日本一の水質を誇る尻別川でのラフティングそして雨に見舞われた営火・夜中の雷を伴った豪雨ではなかっただろうか。

心に残ったものは人それぞれであるが、自然と触れ合える野外環境を教場としているボーイスカウト教育にとって、青少年に与える影響は計り知れないものがあるであろう。

そしてボーイスカウト北海道をこれから担ってくれるアンダーサーティのメンバーとベンチャースカウトの団結と力強さを感じる大会となった。

最終日はスカウト達の行く末を占ってくれたのか絶好の天気となり、4日間の大会も幕となった。大会準備に、運営にそして参加してくれたスカウトたちに弥栄を贈りたい。



## 「北海道キャンポリー2012」を振り返って

《プログラム部 得能 和成》

北海道キャンポリー2012にご奉仕いただいた指導者の皆さん、おつかれさまでした。私は、プログラム部副部長という立場で奉仕させていただきましたが、至らぬことも多々あり、ご迷惑をおかけした場面もあったかと思いますが、皆さんのご協力により、無事大会を終了することができました。お礼申し上げます。

大会を振り返ってみると、大会の趣旨・目的にあった「パトローリングを实践する」「エコキャンプをスカウト自身が考えて実践する」「全道のスカウトの友情と交流を深める」といったことは、ある程度達成できたものと思っています。

参加スカウト数が70名弱、自隊の参加スカウトが1～2名という隊もあり、「大会での隊・班」を編成し、「班」単位でプログラムに参加してメンバーシップを育むという従来の大会とは異なる手法を用いました。「大会での隊」の隊長にはたいへんご負担をおかけしたかと思いますが、大会の目的が達成できたのも隊長のご努力によるものといっても過言ではないと思います。

プログラムについては、担当いただいた指導者のご協力により、無事終えることができました。準備不足など、反省点はいくつか挙げられますが、参加された指導者の皆様からの「アンケート」をまとめられて、今後の大会につながっていけばよいかと思っています。

私の隊も同様ですが、「国旗掲揚ができない」「パトローリングの体形を知らない」「スカウトソングが歌えない」といった、基本的なスカウト技能を知らないスカウトが多数いました。基本的なスカウト技能の指導を各隊で行うよう、今後の自隊での指導や活動について、どうぞ一考いただければと思います。

## 「北海道キャンポリー2012」の評価と反省

《大会副実行委員長／統括 高橋 直克》

☆ 真狩野営場の整備奉仕活動で草刈り、国旗・大会旗ポール、アリーナ、ステージ作り等、札幌地区のみなさんにご支援を頂き、ありがとうございました。

☆ キャンプサイトの各隊では、工夫されたサイトの中で楽しいキャンプ生活が展開され、薪での炊事も、ストーブ、バーベキューコンロなど芝にやさしく工夫され、薪割りも、斧・ナタなど安全に使用していました。

8月5日 夜の雨で、テントの下に雨水が入って濡れた隊もあったようで、テント廻りの溝掘りの必要性、薪を濡らさないなど雨対策を考える「そなえよつねに」の精神を心かける事が大切だと感じました。

☆ 場外プログラム1日目 ラフティング18名、神仙沼ハイク47名

〔神仙沼ハイク〕

神仙沼ハイクは1名、体調が悪く不参加の他は全員元気に参加。

昼食の他に行動食を持たせる。熱中症対策でお茶・水を支給し、水筒に麦茶を必ず持参させた。

活動プログラムの展開も、想像通りに進められ温泉で入浴し、全員無事に帰着する。

〔シティスイープ〕

必須プログラムのシティスイープは、under30のメンバーの企画・実施により、真狩村を知るハイク。村内の商店の人々のご協力・ご支援を得て、予定通りに展開された。

〔自作フィッシング〕

事前に釣り道具、仕掛けを持参し挑戦。オショロコマを釣ったスカウトがいた。草むらの中で虫対策が必要だった。

☆ 場内プログラム

〔バームクーヘン作り〕〔チーフリング作り〕

バームクーヘン作り・チーフリング作りは、当初予定したよりも人気があり、準備した材料がなくなり、追加補充をした。

[火起こし]

マッチ2本で火を起こす。

[ウィズアウト・クッキング]

調理器具を使わない卵料理。

☆ 雨の中の営火

ベンチャースカウト15名が企画・計画したプログラム

前日の薪組み、リハーサルと事前準備は完璧でしたが、本番近くになり突然の雨。小雨となったので時間を短縮して、雨具をつけ長靴を履いてのキャンプファイヤー。

参加したスカウト、リーダー共に思い出に残る展開でした。

☆ B級グルメグランプリ・隊交流会

スカウト達は楽しく夕食会。「あんかけ焼きそば」「ジンギスカン定食」「豚丼」を各隊が作り、食べたスカウトたちが自分が一番おしかったものに割り箸で投票して、その結果をB級グランプリとして閉会式で表彰。小樽の「あんかけ焼きそば」がグランプリを受賞。

☆ 宗教儀礼

仏教、神道、キリスト教で実施。

☆ 開閉会式

プログラム部と under30 が想定通り進められました。

☆ 衛生

[トイレ]

野営場にあるトイレの他に、レンタルトイレ3基を増設。朝・夕の2回、当番班が清掃し、いつもきれいな状態に心がけた。

[手洗い]

食中毒対策として手洗い水をトイレ横に設置。

[ゴミ]

生ゴミだけはキツネ対策のため毎日21:00に管理棟倉庫に預かり。

その他のゴミは、真狩村の分別表を事前に参加者に配付して徹底を図った。

エコキャンプの実施を目指したがまだまだ理解不足で、参加指導者全員に分別表の細目を配付すればよかったと反省。スカウトよりもリーダーの方が理解不足であった。

☆ 配給

参加隊7コ班に配慮した献立で支給も充分あった。

氷の支給は、朝・夕に1コ班に2Kずつ行い熱中症対策も行った。

残ったゴミなどを見ると、それほど無駄にしている食材はなかったようだ。

☆ 本部食堂

65名の本部要員の食事を毎食作り、武田班長の腕前で工夫された献立で全員が満足していた。

☆ 隊運営部の方々の支援で参加隊への連絡調整もスムーズに行い、北海道キャンポリーの目標である「パトロールシステムの実施」「エコキャンプの実施」「全道のスカウト仲間との友情・交流」についても、その成果が十分得られたものと思っています。

一人でやって何もできない、みんなでやるからできるんだ。

本大会に参加された指導者の皆様のご指導、温かいご支援に厚く感謝、お礼申し上げます。



## 4HTCに38名参加

7月30日(月)～8月2日(木)に山形県上山市蔵王坊高原で開催された「第4回北海道・東北ブロックキャンプ(4HTC)」に、北海道からスカウト24名、指導者14名、計38名が参加しました。

4HTCは東日本大震災から1年余、蔵王の地に集う北海道・東北のスカウトが「今できること、私たちにできること」を考え、被災した仲間を思い、未来に目を向けて～希望への絆～を強める大会として開催されました。

北海道連盟派遣団は、1コ隊相当のスカウトが全道各地から参加するため、派遣団の共通野営用具は北海道連盟が一括用意してレンタルしたトラックで搬送、参加スカウト・指導者は個人装備品を用意、そして苫小牧第2団のご配慮により、7月28日(土)・29日(日)に苫小牧で1泊の事前研修を行う、新たな派遣方式を試行しました。

記録写真集(CD-R)と参加スカウト、指導者の感想文集を作成して参加者に配付しましたが、閉会式で参加スカウトを代表して、札幌第24団高田宏幸君の「感謝の言葉」と北野派遣団長、清水派遣隊長の感想文を紹介します。

### 4HTC スカウト感謝の言葉

僕が、4HTCに参加して感謝したいことが3つあります。

まず1つ目が、家族です。僕が4HTCに参加する際も、「行ってらっしゃい」の一言もなく冷やかに家を追い出された感じでしたが、ポジティブに考えるとそれだけ心配していると受け取れ、親の愛情を感じました。

2つ目は、北海道派遣隊の皆さんです。僕は、「豆しば班」という班の班長をしていたのですが、僕がどんなに無茶な指示をしても、班員は苦笑いで応じてくれました。4HTCで僕がこんなに楽しめたのも、この北海道派遣隊の皆さんのおかげです。

最後にここにいるすべての皆さんです。ここにいるスカウト、リーダー、関係者の方々誰一人欠けていたならば、4HTCは成り立たなかったと思います。

皆さんこの最高に楽しかった3日間を本当にありがとうございました。

平成24年8月1日 閉会式にて。

4HTC北海道派遣隊 豆しば班 班長 高田宏幸



## 《派遣団長 北野 和》

久々の道外での大会であり、ワクワクした気持ちで参加しました。道内各地から参加するスカウトの混成隊であり、チームワークが心配でしたが、その心配は、苫小牧での一泊二日に事前訓練で消えてしまった。

大集会・閉会式の「復興応援パフォーマンス」で演じる「よさこい・ソーラン踊り」をみんなで一生懸命、汗だくになりながら練習したことで、班がひとつに纏まったと感じました。初めて会ったスカウト達が、「よさこい・ソーラン踊り」をみんなで一緒に踊ると同じ目標を持つことで、北海道派遣隊は、ひとつになれたのでは・・・。

28～29日の苫小牧での事前訓練も晴天の中、無事終了。29日(日)19時出発のフェリーに乗船し、いざ、キャンポリー会場に向けて出発しました。

翌30日(月)、キャンポリー会場に到着、天気はそれまで晴れていたのに、設営を開始する頃から大きな雷がなり、雨が降り出した時、フェリーの中で清水隊長が言った言葉を思い出し、清水隊長は、やっぱり雨男だとわかりました。気温は、最高気温は30℃を超えていましたが、夜には24℃くらいと過ごしやすかった。

蔵王登山は、武田副長と池田副長が引率してスカウト達が、元気に出発。ひとりもリタイヤすることなく、無事、元気に戻って来た時は、スカウトに感動した。やはり、「よさこい・ソーラン踊り」の練習で培われた成果だと思った。

道連提供プログラムのムックリの製作は、購入した材料のままでは限られた時間内(20分～30分)での完成は、難しいとの判断から振動部位を予め下削りすることになり、長岡大会長、田中さん(室4)にお手伝いいただき、また、プログラム当日は、人気で何個班も順番待ちが出る状況となり、長岡大会長、田中さんには、ムックリ製作のスカウト指導を言手伝いいただき有難うございました。

大会本部要員として奉仕されたベンチャースカウト、指導者のみなさん、本部奉仕しながら派遣隊のお手伝いをしていただき有難うございました。苫小牧での解散式の時、スカウトたちに笑顔が涙が溢れたのは、清水隊長と副長たちの指導が、スカウト達に喜びと感動を与えたからだと思います。

私にとって今大会は、初めての派遣団長という重責でしたが、派遣団の皆さん、苫小牧2団の猪股さん、苫小牧教育委員会の松野課長、皆さんのご尽力により無事努めることが出来ました。本当にありがとうございました。

## 《派遣隊長 清水 義明》

この夏、私は山形県上山市蔵王坊平高原において開催された、第4回北海道・東北ブロックキャンポリーへ参加する機会に恵まれた。

思えば、昨年10月全道スカウティング研究協議会の席上、あるリーダーが「来年の夏は北海道キャンポリーも開催されるが、4HTCの開催の年でもある。先の震災で被災した県連のスカウトも参加するであろう、私たちは同じブロックのスカウトとしてこの大会に参加し、仲間を励まし大会を盛り上げようではないか！」という発言で、私は参加を決めました。

思えば、道外の大会に参加するのは、第14回日本ジャンボリー以来のことで、東北の地で開催されるキャンポリーの規模など想像ができませんでしたが、スカウト以上に胸躍らせ、楽しみに準備をしていた気がします。

北海道派遣団は、胆振、札幌、空知、旭川、上川、十勝の6地区から24名のスカウトと、ベンチャーを含む本部奉仕員と派遣隊指導者

が、山形への出発前日、苫小牧に集合して一泊事前研修を実施することとしました。

これは、スカウトに必要な野営技能やスカウト精神は、「日頃の活動をとおして身につけている」ということを前提に、従来行っている数回の事前訓練は実施せず、まさに“ぶっつけ本番”の北海道派遣隊でした。(※道連事務局はじめ派遣団長、派遣隊指導者とは綿密な事前の打合せがありました。)

派遣隊長として私は、苫小牧に集結するまでは「どんなスカウトが参加するのか?」「班活動はうまくいくのか?」などなど不安がありました。

しかし、その不安はすぐ吹き飛びました。積極的に初めて会うスカウトに声をかけている者、いっしょにゲームをする者など、そして、その極めつけは、北海道がキャンポリー大集会で披露する復興応援パフォーマンスの「y o s a k o i ソーラン」でした。

苫小牧ではめずらしく蒸し暑い日となり、研修会場の体育館も例外ではなく、汗だくの状態で初めて会うスカウトと初めて舞うヨサコイ。始めは振りがバラバラで“ピッ”としないようでしたが、数回の練習を続けるうちに、振りや大きな掛け声がそろそろようになり、私は「北海道派遣隊の心が一つになった」と確信しました。この勢いで山形へ坊平へ行こう！

大会は「希望への絆」をテーマに、震災で甚大な被害を受けた岩手、宮城、福島のスカウト仲間や被災された人々を思いやり、命の重さや尊さを受け止め、スカウトとして活動をとおして「今できることは何か」を問い、考えるものとして開催され、スカウトたちがブロック内外から約600名、蔵王坊平の地に集う三泊四日のキャンポリーです。

フェリーとバスを乗り継ぎ30日午後、蔵王坊平の地に到着。慣れない船旅で寝不足や乗り物酔い、道外でのキャンポリー参加という緊張からか、元気のない様子スカウトたちに設営開始とともに天候が急変し「雷雨の洗礼」いや“歓迎の雷雨”を受けました。

割り当てられたサイトには“平らな場所は無い”と覚悟はしていましたが、木立が生い茂る中にまともな面積が得られないサイトに正直、愕然とした。ここにA型テントは厳しい、まして経験の少ないスカウトが雨の中で設営するには、とても厳しい状況でした。

しかし「濡れたくなければ、協力して早くテントを立てろ！」と激をとばし、雷鳴が激しく轟く中、設営作業に苦戦したスカウトたちには、よい経験と思い出になったことでしょう。

さて、翌日からのキャンポリープログラム、炎天下のなか景勝地「お釜」を目指す登山からスタートしましたが、慣れない暑さで熱中症など、スカウトの体調が心配されましたが、幸いにもリタイヤした者は無く、一班、ひと班と帰営してくる疲れた様子スカウトを迎え、握手をしながら「この調子で明日も頑張れ」と、気づくと声をかけていました。

キャンポリー生活では、当番班、炊事班、配給班などの隊役務を各班に毎日交替で担当してもらいました。スカウトの多くは原隊が少人数であり、班活動に慣れていないスカウトたちが、班長を中心に話し合い行動する“パトローリング”を体験できたものと思います。

会期中は設営時を除き、天候に恵まれ陽射しは強く暑い日でしたが、木陰にいると風が涼しく爽やかでした。“高原の風”に吹かれながら

飲んだコーヒーに“パトローリング”というクリームを加えると格別の味がしました。

こうして、私がおのきなコーヒータイムを楽しめたのは、北海道派遣団の皆さんからのアドバイスや支援があったからです。

北海道連盟担当の選択プログラム「ムックリ作り」、下処理作業で彫刻刀を握り続けた、長岡大会長、右肘腱鞘炎の恐れ有り？

睡魔と戦いながら、スピードの出ない資材トラックのハンドルを握った、北野派遣団長。

愛車のキャンピングカーで、会場から上山市街まで往復32kmのワインディングロードを走り、派遣隊の“お使い”を引き受けてくれた、下田副理事長と西岡さん(胆振地区)。また西岡さんのスカウトに対する細やかな心遣い勉強になりました。

毎晩の“派遣団会議”も野営管理部の高橋さん(胆振地区)がいれば、消灯時間も天下御免！

担当部署が開店休業？のため、派遣隊サイトで雑用をこなしてくれた、田中さん(胆振地区)。

本部売店勤務終了後は、食器洗いや派遣隊サイト内のかたづけ、帰路の東北の旅、地酒はおいしいですね、長尾さん(札幌地区)。

配給部、本部食堂での奉仕、夜は派遣団サロンのマスターで登場、派遣隊の後方支援は助かりました！柿崎さん(空知地区)。

大会本部要員、野営管理部奉仕は勉強になったでしょう、ベンチャーの前谷くん(札幌地区)。同じく、大会本部要員行事部奉仕のMrトランプマン中野渡くん(札幌地区)、お陰で往復のフェリーでスカウトは退屈しなかったとか？

事前研修会場、苫小牧東小学校で一泊二日体育館でお付き合いいただきました、苫小牧第2団猪股さん、市教育委員会の松野課長さん。

山形県連との連絡調整など、前田副理事長、道連事務局の中本事務局長、遠藤さん、大変お世話になりました。

そして、派遣隊副長には、生活担当とプログラム担当をそれぞれ受け持つて頂きました。

生活担当の村上さん(旭川地区)、毎晩の班長連絡会では厳しく的確な班長指導でした。同じく、生活担当の池田さん(札幌地区)、炊事指導や衛生管理、ヨサコイのメイク、ランチパックに飽きた昼食の冷や麦は最高の味でした。

プログラム担当の武田さん(十勝地区)、ヨサコイの指導、キャンパスに残る桃形の汗の跡？力いっぱい指導したのね。また、炎天下の蔵王登山引率、お疲れ様でした。

同じくプログラム担当の関藤さん（空知地区）、スカウトタウン指導、選択プログラムなど、咳が日々悪化していくような感じでしたが、薬を飲みながら頑張ってくれました。大集会でのヨサコイ紹介コメント、“ヤン衆”に負けない迫力は、ワイルドだぜ～。

こうして、みなさんのお陰でスカウトたちは、事故もなくキャンポリー生活を過ごすことができました。

私自身も、キャンポリーを楽しむことができました。次回も是非参加したいと思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。



8月1日（水）～8月6日（月）に滋賀県希望が丘文化公園で開催された第11回日本アグーナリー（国際障害スカウトキャンプ大会）に北海道連盟を代表して本部奉仕に参加した、札幌第27団中門亮介君の報告書が、北海道連盟ホームページ（事務局ニュース）に登載されていますのでご覧ください。

# WB実修所カブスカウト課程151期 WB研修所新指導者訓練体系4部門課程 ＝ 開 設 ＝

旭川地区野営場で、4月29日（日）～5月4日（金）5泊6日の日程でウッドバッジ実修所CS課程第151期が開設され、14名（内1名は山梨県連）が参加しました。

また、今年度から試行された新指導者訓練体系にもとづいた基本訓練、WB研修所BVS課程第15期、CS課程第46期、BS課程第45期、VS課程第4期が、6月22日（金）～24日（日）の2泊3日、北海道神宮頓宮で舎営により開催され、各部門合計38名（内道外2名）が参加しました。

実修所参加者は「基本訓練」を履修し、自隊にもどり実修所で学習や体験したことを隊活動の中で実践する「奉仕実績訓練」を経て修了となります。また研修所参加者は、11月（又は1月）に開催される「安全セミナー」を受講して、修了証が発行されます。

この実修所、研修所で学んだことを基に、指導者としてスカウトたちにより豊かなスカウティングを提供されることが期待されます。

## 「新指導者訓練体系試行：WB研修所の開設」

《北海道連盟コミッショナー 扇間 康弘》

今、スカウト数が減少している中で、新しい指導者育成がこの運動の将来にかかっているのが現実であります。

平成24年度については、兼ねてから指導者より要望があった期間の短縮、分割を考え、北海道連盟は試行として2泊3日の舎営を選択しました。

この事により研修所参加希望者が例年よりも多かった事に深く感謝申し上げます。

平成25年度についても平成24年度の反省を踏まえ参加希望者が少数でも開設できるよう、日本連盟と調整の上、進めて行きたいと思えます。

スカウトへの魅力提供のためにも熱意をもって進んで研修に参加される事を期待します。

## 「WB研修所 BVS課程北海道第15期を終えて」

《ビーバー課程 所長 神山 博子》

BVS課程は、9名の参加者で初の舎営。また、今回は4コース合同という初めてのことが多い研修所でした。運営方法も一新され、スタッフにも戸惑いがありましたが、始まってしまえば心配するほどの事もなく無事に終了することが出来ました。

参加者にとっても、野営での研修所と違い炊事や野営工作等もなく研修に打ち込めたことと思えます。

道外（青森）からの参加もありお互いに刺激のある3日間だったと思えます。

セッションの合間にソングやスタンツを入れ、座学の疲れを癒し頭の切り替えにも配慮したことも参加者に好評で楽しく研修が出来ました。

研修所で学んだスカウト運動の基本やプログラムプロセスを活用し、参加者が原隊に戻り意欲的に隊集会を実施しスカウト増員が出来ることを願っています。

15期の仲間として今後も情報交換等を通し、良いスカウティングが出来ることを期待します。

## 「WB研修所ボーイ部門 所長所感」

《ボーイ課程 所長 今井 建》

今回は新しく導入される新指導者訓練体系に則して実施いたしました。ボーイ部門も北海道神宮頓宮2泊3日の舎営での開催となりました。

他の部門はどうか分かりませんがボーイ部門で野営をしないというのは違和感がありました。

参加者の方々は初めてですのでボーイの研修所とはこのようなものなのかと理解し、それなりに納得されたとは思いますが、私は所長として何か伝えきれなかった部分、やり残した部分があるような気がします。実際にはボーイスカウト部門の学習到達目標は達成できたはずですし、研修所の目的は成し遂げることができたと思えます。

伝えきれなかった部分、それは3泊4日の野営の中で参加者自らが気づくこと、日にちが経つにつれ使いやすくなっていくサイト、便利になっていく工作物、雨対策、毎朝の点検、高まっていく班員のまとまりなど、セッションでは触れない部分に研修所を終えた喜びや達成感があったように思います。1泊2日の野営でそれは伝えられない気がします。やはり3泊は必要。

参加者の皆さん、今回はボーイ部門の隊長とは何か、集会はどのように展開するのかというセッションを受けていただきました。ここは重要な部分です。相撲に例えると土俵の作り方、土俵の上がり方を覚えたといったところです。皆さんは指導者として同じ土俵に上がりました、スカウトとどのような相撲をとるのか、一人一人違うとは思いますが、自由です。ただスカウトは真っ正面で受けとめてあげてください。立ち会いで変わる、土俵際で引く、そういう態度を「横綱としてそれはどうだろう」あるいは「隊長としてそれはどうだろう」と言われる部分です。

研修所、実修所を修了した、あるいはLTになったからどうこうということはありません。スカウトも含めて私たちが行っている活動が正しいスカウティングでありますように。

## 「WB研修所を終えて」

《ベンチャー課程 所長 野内 吉徳》

この度WB研修所ベンチャー課程新米所長として奉仕させていただきました。

ビーバー課程からベンチャー課程までの4コース全てが新米所長かつ同一会場で行われたのはおそらく北海道連盟初の試みだと思います。全課程を合わせると道外から2人を含む38人の参加となった。

新課程による日程の短縮と野営生活では体力上ちょっと厳しいという方にとって舎営ということでの気軽さ、そして全課程が実施されるということもこれだけの人数となった要因であろうと考える。

参加者の研修に対する意識の低さは若干感じられたが、隊指導者基礎訓練課程として研修所が行われていることから、隊指導者として課程別の基礎研修に参加することがまずは第一歩と考える。

野営型に比べ少し物足りなさもあるが、奉仕する側も1日少ないのは非常に有りがたいが、反面毎日のセッションが少し長すぎる。各セッションの配分時間を精査すれば、参加し易さという点から2泊3日舎営型所員数、会場の収容力を考慮して同一会場2コース程度で今後も継続する方向がベターと考える。

本研修所で学んだボーイスカウト運動の目的、原理、方法をもう一度思い出し原隊活動を忠実に実行していただきたい。こんな時代だからこそ必要だと言われながら登録者減少に歯止めのかからないこの運動を回復させる唯一の方法と考える。同じ釜の飯を食べた仲間として互いに励ましあい助け合い、自己研さんを積み重ねスカウト運動にご尽力をお願いします。

スカウトたちにより豊かなスカウティングを提供する「スキルトレーニング」認定を受けましょう。  
認定項目は「新指導者手帳」または日本連盟ホームページを参照してください。  
スキルトレーニング認定者はLT、ALT（函館地区、十勝地区は地区コミッショナー）です。

「安全セミナー」が11月11日（日）北海道神宮頓宮、25年1月26日（土）～27日（日）北見市留辺蘂町つつる温泉で開催されます。研修所履修者の他、指導者の方はどなたでも参加できます。詳しいことは北海道連盟ホームページをご覧ください。札幌会場の参加締め切りは10月末日です。

## ＝編集後記＝

- ◇ 北海道キャンポリー、4HTCなどが重なり、「斧の響き」本年度初の発行となりましたことをお詫びいたします。次号は1月1日号「第54回全道研特集」と「新春誌上賀詞交換」を予定しています。
- ◇ 「新春誌上賀詞交換」の原稿を募集します。1口（横8cm×縦4.5cm）2,000円です。詳しいことは、各団・各地区あておよび道連ホームページでご案内します。締め切りは12月15日。

斧の響き 144号（平成24年10月1日発行）

発行・印刷：日本ボーイスカウト北海道連盟／発行責任者：北海道連盟理事長 長岡 正彦  
〒062-0934 札幌市豊平区平岸4条14丁目3 北海道ボーイスカウト会館内  
Tel 011-823-7121／Fax 011-814-9377 E-Mail bs-douren@bz04.plala.or.jp  
北海道連盟公式HP <http://www.bs-douren.org/>